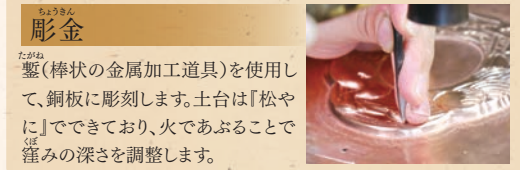




又新殿 玉座の間 修理前 修理後



**彫金**  
鑿(棒状の金属加工道具)を使用して、銅板に彫刻します。土台は「松やに」でできており、火であぶることで窪みの深さを調整します。

**水銀鍍金** 銅板に水銀を載せ、金を定着させる方法。この方法を使用することで金に厚みを持たせることができます。



**【水銀塗布】**  
銅板の表面を洗浄し、水銀を均一に塗ります。

**【箔押し】**  
金箔を載せます。水銀と化学反応を起こし、金が融けて【水銀塗布】の写真のように見た目は銀色に戻ります。

**【焼き】**  
2～3時間かけて、じっくり焼いていきます。焼くことで水銀が蒸発し、金が現れます。

**【磨き】**  
重曹で磨くことで金色に輝きます。水銀を載せてから磨きまでを3回繰り返し返します。  
※特別な環境のもとで作業を行っています。

人がつなぐ 担当者の声【金具職人】

Q. 又新殿の金物の特徴は？

A. 腕のいい職人が余力を残して作ってる印象を受けます。作り込むのは時間をかけたらできるんですが、一生懸命にやりましたという雰囲気を出さずとも上手に作られています。上手い人がこのように作られると、同じように修理するのが大変難しいです。

Q. 職人の醍醐味は？

A. 仕事をしていると無言の会話といえますか、同じものでも作る人によって違います。何年仕事をしていても、完璧にできることはなく毎日が勉強です。

株式会社 後藤鋳金具製作所  
取締役 後藤 正太さん



**湯釜紹介** はじまりは奈良時代から使用されていたと伝わる道後温泉の石製の湯釜は他の温泉地では見られない独特の趣があり、道後温泉の魅力の一つです。現存する13の湯釜について、歴史的価値などを紹介していきます。



第4回 神の湯 湯釜 (東浴室)

大国主命が少彦名命を抱く像を彫ったこの湯釜(直径143cm、高さ280cm)は、明治27年(1894)神の湯本館棟改築時に一ノ湯に設置されました。その後、昭和10年(1935)の神の湯本館棟浴室改築時に東浴室に移され、現在は神の湯の男子浴室で使用されています。湯釜の石材は又新殿の湯釜と同じ香川県高松市庵治町の庵治石が使用されています。三津浜港から牛15頭を使って道後温泉まで引かせ、湯釜薬師を製作した職人の出身地である広島県尾道市から呼んだ石工が彫ったと伝わっています。湯釜には山部赤人の長歌が彫られており、道後温泉が名湯であることを称え、後の世まで栄えることを祈る意味が込められています。この長歌は道後温泉別館 飛鳥乃湯泉のプロジェクトマップピングでも見ることができます。



文化庁 POWER OF CULTURE 文化力

■補助事業名 / (重文)道後温泉本館神の湯本館ほか7棟建造物保存修理事業  
■補助事業費 / 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金  
■施工者 / 門屋組・成武建設・富士造型特定建設工事共同企業体 ■監理者 / 文化財建造物保存技術協会

道後温泉本館は、神の湯で入浴できます。

※霊の湯(男・女)、又新殿、2階・3階休憩室は休止しています。  
※令和3年7月より霊の湯(男・女)で入浴できます。  
※営業時間や入浴料など、詳しくは「道後温泉公式サイト」をご覧ください。

■お問い合わせ先 道後温泉事務所 TEL.089-921-5141  
〒790-0842 松山市道後湯之町5番6号



[道後温泉公式サイト]  
https://dogo.jp



重要文化財 道後温泉本館 保存修理工事

歴史をつなぐ 未来へのこす

愛媛県松山 道後温泉

# 道後温泉本館の紹介



**営業中**

**又新殿・霊の湯棟** 修理中

明治32年(1899)竣工。日本唯一の皇室専用浴室のある又新殿・霊の湯棟は、銅板葺及び檜皮葺の木造3階建て、正面(東面)に御成門があります。

## 神の湯本館棟

明治27年(1894)竣工。棧瓦及び銅板葺の木造3階建てで、1階に浴場、2階・3階を休憩室とし、入母屋造の大屋根の上に塔屋を設けています。(※1階で入浴できます)



**修理中**

**玄関棟** (内部のみ)

大正13年(1924)竣工。神の湯本館と南棟を合わせて、建物全体を整えるために移築されたと伝えられています。また、「道後温泉」と書かれた看板は昭和25年から飾られ、現在は2代目です。

## 南棟

大正13年(1924)竣工。養生湯として建築され、神の湯本館と同じく、棧瓦及び銅板葺。修理前は、神の湯女子浴室として使用していました。



前期工事では時代を超えて人々を癒す「道後温泉」と、時空を超えて人々を導く永遠の生命の象徴、手塚治虫のライフワークといえる「火の鳥」とコラボレーションした「道後REBORNプロジェクト」を実施しています。

© TEZUKA PRODUCTIONS



## 道後温泉本館保存修理工事スケジュール

平成30年度～令和6年度(予定)

	平成30年度(2018)	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
素屋根工事		組立	前期工事	移動	後期工事		解体
神の湯本館棟	入口切替			内部・屋根解体調査		屋根葺替・内部組立	
又新殿・霊の湯棟		内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立				
南棟		内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立	内部・屋根解体調査		屋根葺替・内部組立	
玄関棟		内部解体調査		屋根解体調査		屋根葺替・内部組立	
事務所棟				内部・屋根解体調査		屋根葺替・内部組立	
便所棟		解体		改築			
本館周辺整備	埋設物調査		塀復旧				石柵復旧

★現在 ★入口切替  
R3.3月時点

入口切替予定★

## 又新殿の襖の修理

～文化財修理の職人技 日本の伝統工芸士(京表具)～



又新殿は皇室専用の浴室として建設され、内部の襖や障壁画は金箔、銀箔で覆われています。花や鳥など様々な図柄が描かれ豪華絢爛な設えでした。

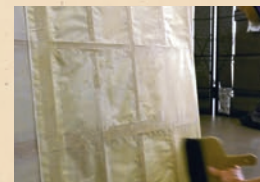
修理前の玉座の間の襖



**【骨縛り】**  
骨下地(木で組んだ状態)が動かないように和紙で固定します。



修理のために使用する岩絵の具



**【胴張り】**  
襖が光を通さないようにするために和紙を張ります。



補彩の状況



**【裏掛け】**  
保温や保湿力を高め、丈夫にするために細長い和紙を張ります。



**【補筆・補彩】**

障壁画や襖に描かれた絵は経年による劣化が見られ、欠けた部分の修理を行っています。剥がれそうな部分は膠で接着するなど、明治時代の当時の技術を使って修理をします。



**【浮かし張り】**  
張替の時、下地を傷めないようにするために細長い和紙を浮かすように張ります。

## 人がつなぐ 担当者の声【経師職人】

### Q. 修理にかける思いは？

A. 私たちの仕事は最初に作った人の思いを次の世代につなげるのだと考えています。文化財というのは修理を重ね残していくもので、次に修理する人に見られて恥ずかしくない仕事をするように心を込めて修理を行っています。

### Q. 又新殿の襖の特徴は？

A. 一般的な襖の下張りの紙は通常4枚使用されるのですが、又新殿では2倍の8枚も使用されています。何枚も張るとは襖を長持ちさせることにつながり、見えない所にも手間を惜しまない建設当時の職人の丁寧な仕事とこだわりが伝わってきます。

※経師:襖・障子など紙や布を張る作業



株式会社 さわの道玄  
製作部長 吉川 諭さん



株式会社 丸二  
表具師 中川 義博さん  
伝統工芸士(京表具)